授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の国語の未来へバトンをつなぐ

令和３年 11 月発行
西部教育事務所

国語科授業づくり講座は、今年度も宿毛市立宿毛小学校を会場校に、「Ｃ読むこと」の授業づくりについて研究しました。
【教材研究会（８月 27 日）、授業研究会（10 月 29 日）】

学　年　：１学年
単元名　：すくもほいくえんのおともだちに、「どうぶつのちえカード」でどうぶつのすごいちえをつたえよう
教材名　：「子どもをまもるどうぶつたち」（東京書籍一下）
言語活動：お気に入りの動物の知恵を見つけ「どうぶつのちえカード」にまとめ、伝え合う活動

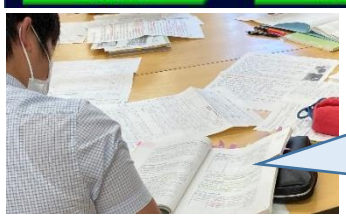
授業者　１年Ａ組担任　石川　有紗　教諭

西部管内の講座関係ＨＰ

教材研究会

能力ベイスの授業づくりのプロセス

「能力ベイスの授業づくり」では、「学習指導要領の指導事項の確認や教材の特徴、学習の系統の確認を通して、単元で育てたい資質・能力を明確にする」ことが出発点となります。この単元で育てたい資質・能力に対して「最適な言語活動か」「資質・能力を育成する課題解決的な活動か」を吟味・検討したうえで言語活動を設定することが必要です。これらを踏まえ、単元全体のつながり、単元のゴールや課題解決に向けた１時間１時間の課題を設定しながら単元計画を作成していきます。国語科における資質・能力を育成するためには、言葉に着目して言葉への気付きや自覚を高めたり、自分の考えを深めたり、言葉による見方・考え方を働かせることが重要です。ですから、教材分析の際に、「どんな言葉に着目させるのか」「どのように考えさせるのか」といった視点から働かせたい見方・考え方を明確にし、それを「単元のどこにどのように位置付けるのか」といったことを育てたい資質・能力、教材、言語活動と結び付けて考えることが大切になります。

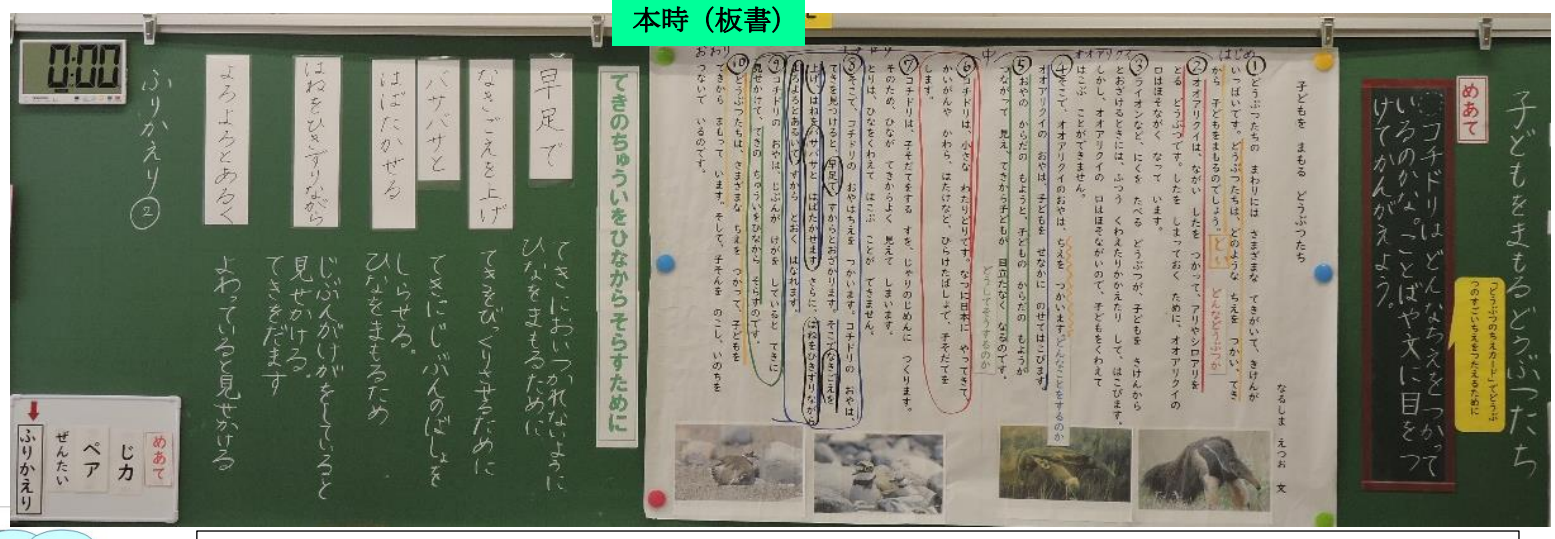


解説を開き、育成を目指す資質・能力がどんな力なのかを確認したうえで、教材分析を行っています。

授業研究会

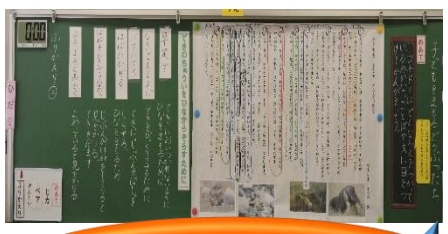
授業研究会は、新型コロナウイルスの感染防止のため、授業ビデオを視聴しながら協議を行いました。

本時（板書）



【本時の目標】
コチドリの子どもを守るちえを教材文から見つけ、重要な語や文を選び出すことができる。
【評価規準】Ｃ（１）ウ
「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
【Ｂ概ね満足できる状況】
コチドリの子どもを守るちえを教材文から見つけ、重要な語や文に印をつけている。

「分かる」から「できる」へ（理解と表現）



お気に入りの動物のことが載っているページをいくつか撮影する。

写真１

撮り貯めたページを読み、すごいと思った動物のちえを表す言葉や文のところに線を引く。

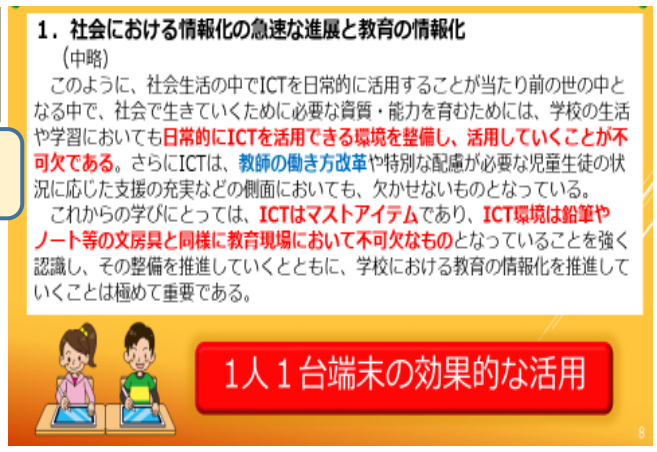
写真２

写真３

正確に理解　　**適切に表現**

言葉への認識、言葉の使い方、言葉の関係性

適切に使う、吟味・検討する、考えの形成、伝え合う



能力ベイスの授業では、教材「を」ではなく、教材「で」学習することが大切です。教材を効果的に使って、内容を「正確に理解」することはもちろん大事ですが、さらに教材を通して身に付けたことを「適切に表現」することを組み合わせた単元構成や授業づくりが重要になります。板書の写真のように言葉の意味や使い方等に着目しながら、教材でコチドリの「子供を守るちえ」について学習したことを、お気に入りの動物のちえが書かれた文章（写真１）を読むときに生かしています（写真３）。教材を通して働かせた見方・考え方を自分が表現するときにも働かせることを積み重ねていきます。子どもたちの力を「分かる」から「できる」へと引き上げていき、そのことが、「資質・能力」の育成につながります。また、これからの授業づくりにおいては、今回の石川先生のような ICT 機器を有効に活用した授業づくりが大切になってくると思われます（写真２・３）。
教科目標にあるように、子供たちが言葉を「正確に理解」することと「適切に表現」することを繰り返す言語活動を設定した単元づくりを行っていってほしいと思います。

参会者の感想（授業研究会）

- 国語科の授業づくりが、チームとして取り組めていないことに気付いた。宿毛小学校の単元構想図を自校で広めていきたい。
- 問いを持たせることで見方･考え方を働かせる学習になっていることや目的・相手意識を持って学習を進めていることなど、国語の授業づくりに生かしていきたい。また、本時の目指す児童の姿を明確にした評価をしっかり行っていきたい。
- 言葉による見方･考え方を働かせることが、授業デザインの中には欠かせないことがより詳しく理解できた。
- ３学期に実施予定の教材なので、１年担任に学んだことを伝えたいと思う。